

あきたの 地域医療通信

2012年1月 第12号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



女性医師、医学生を支援します！

女性医師を支える秋田県内の取組と女性医師、女子医学生への応援メッセージ

女性医師が増えてきていますが、女性医師の活躍を支援する様々な取組が行われています。秋田県内で臨床の最前線に立ちながら、後輩女性医師の育成にも携わり、なおかつ家事もこなすという、女性医師の皆さんにその取組と活動を伺いました。

秋田大学医学部で教育の立場から女性医師支援に取り組んでいるのが、総合地域医療推進学講座助教の蓮沼直子先生。専門は皮膚科で医局長も務めていましたが、県の寄附講座設置後、医学教育、特に女性医師支援に取り組んできました。

現在、秋田大学では、女性医師支援に係わる講義を1年生に1コマを実施しているほか、3年生に対しては全員を対象に5コマ、必修講義として実施しています。

また、5年生では、女子医学生の希望者と院内で活躍する女性医師とのランチ進路相談会を行うなど、活発な活動を行っています。

これらの企画・実施をしている蓮沼先生にお話を伺いました。

1年生はまだ入ったばかりなので、実際の医師の仕事について紹介をしながら、将来何歳頃にはこんな仕事をしていきたい、プライベートでも、結婚や出産など自由に考え「キャリア未来年表」を作成します。3年生には、丸一日時間を取っており、まずは女性医師支援・男女共同参画の概論や医師の生活について先輩医師から講義を受けます。その後、「初期研修中に結婚・出産した同級生カップルの後期研修の進路」などリアルに起こりそうな問題のシナリオを用いて、問題点や選択についてグループディスカッションを行い発表します。同じシナリオでも、違った結論が出るなど、なかなか面白いものです。最後に院内外のロールモデルたちの話を聞きます。

また、講義ではありませんが、ランチ相談会は、昼休みにやるのがミソです。女子医学生、女性医師ともそれぞれ10名前後と少人数で、2、3回の日程に分けて行います。夕方や夜だと育児中の女性医師が、出席できないものですから。科を超えて若い先生たちが本音でいろいろ相談ができます。大学内の理解もあり、その日は昼に会わせて外来を切り上げられるよう各科で

声がけをしてくれたり周囲の環境も良い雰囲気になっています。

そんな蓮沼先生からの女子医学生、若手女性医師の皆さんへのアドバイスは、「サブスペシャリティを持つ」です。女性医師の出産後はどうしてもペースダウンしますし、当直も免除されたりと、逆にそのことで後ろめたさを感じたりすることがあります。しかし、自分の得意分野を持っていれば、それが自信になり、後ろめたさが軽減しますよ。自分もそれができるんだ、頼られているんだと思えることで、自信をなくさず仕事が続けられると思います。医者にならなくなったのかという気持ちを忘れないで、若いうちに技術の貯金をしてください。

多分、女性医師の方は、勉強でも何でも自ら努力して数々の困難を乗り越えて、今医師として活躍しているのだと思うのです。でも、子どもができて初めて自分が努力してもどうにもならないことが人生にあるのだということに気づくのかも知れません。自分がいくら一生懸命育児に努力したとしても、子どもは熱を出します。子育てしながら仕事をするのは大変ですが、時間の使い方や判断能力は磨かれますし、良いことも沢山あります。

心配や不安がある時には、先輩としてお話を聞いてあげたり、相談に乗ったりと、facebook等の活用で仲間もたくさん増えてきています。また、母校（秋田大学）は実家のようなもの。どこにいても、何かあったら必ず相談に乗りますよとの力強い言葉もいただきました。



蓮沼直子先生

病院勤務医の立場から、女性医師についてお話いただいたのは、平鹿総合病院で、リハビリテーション科と循環器内科の科長を兼ねる伏見悦子先生です。自身も現在5人のお子さんを育てながら、臨床研修プログラム責任者もこなすという伏見先生は、旦那様も同じ病院の脳神経外科の診療部長を務める先生です。



伏見悦子先生

伏見先生には病院勤務の若手女性医師向けにアドバイスをいただきました。

初期研修中に関しては、女性医師も男性医師も未婚の場合は大差ありません。女性医師が体力的に厳しいなどの見方をする先生もいますが、そんなことは一切関係ありません。

問題は、妊娠したらどうするかです。女性の場合は出産のため

に休みを取らなければならない期間が出てきます。

また、循環器内科の場合、心臓カテーテルの検査は被爆の恐れがあるので、できない場合もあります。カテーテルの検査ができないと循環器内科の医師とは認めない

という先生も世の中には存在しますが、心配御無用。

循環器内科には、心エコーや心臓リハなど他の分野もあり、この分野を得意とする医師は少なく、かえって希少価値が高いくらいです。このような得意分野を持っていれば、妊娠しても自分に自信を持ってやっていけますよと。

カテーテル検査は、花形で男性医師が好む分野でもあり、「先生お願いします」と頼めば、喜んでやってくれますよ。ある意味での循環器内科分野内のワークシェアですよと明るく話してくれます。

とにかく、研修医のうちはバリバリ働いて、自分に知識、技術の貯金をしてください。平鹿総合病院は、正直女性医師は少ないです。だからこそ私は女性医師が来てくれれば、全面協力しますと伏見先生の弁。

5人の子どもについても、上は大学生から下は小学5年生まで。でも、出産で3ヶ月×5人で15ヶ月も休めたから。定年までこの病院で勤務医として働き続けると話す、伏見先生のパワーが秋田で働く女性医師を勇気づけ、増やしてくれるのかなと思います。

全国の女子医学生皆さん、秋田県の女性医師は元気ですよ。是非来てみませんか。

県医師会で女性医師を支援するのは、県医師会の理事で日本医師会男女共同参画委員会委員長も務める大湯リハビリ温泉病院長の小笠原真澄先生。

県の委託を受けて育児や勤務環境等の相談に対応する、女性医師相談窓口を平成21年8月から開設しています。この存在をまだ知らない先生が、実は悩みを抱えている先生であることが多いと思いますので、窓口の周知に努めるとともに、病院管理者の意識の改革を図るために、病院管理者も対象とした女性医師フォーラムを行うなど、県医師会としても様々な対応をしています。

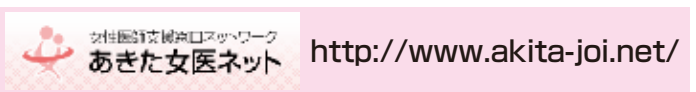
各病院や秋田大学の医局に女性医師に関するアンケートを取って、その結果をホームページに掲載するなどして、女性医師、医学生に対する基礎的な情報提供を行っています。

女性医師対策について、いろいろ言われますが、女性医師が増えたことで、今まで見えてこなかったこと、大変だと思ってもなかなか口に出せなかった医師の勤務環境に関する諸問題が



小笠原真澄先生

表面に出てきたのではないのでしょうか。そういう意味では、女性医師の勤務環境改善支援策は、医療界全体の問題の解決策につながるのだと思います。



女性医師支援策に関しても、三人の先生方に伺いました。これがあれば全て解決という策はないというのが結論でした。

院内保育所や短時間勤務などの制度などたくさんのメニューがあり、その選択肢の中から自分にあわせて使えばいいのではと。沢山のメニューの中から必要なサポートを本人が主体的に選べる環境作りが必要なのではないでしょうか？

これからますます女性医師の割合が増え、活躍の場も広がってきます。秋田県では、大学、医師会、医療機関、行政がみんなで女性医師の勤務環境の改善や、応援、支援を行っています。女性医師、女子医学生の皆さん、秋田県であなたの能力を十二分に発揮してみませんか！

医学生修学資金(市町村振興奨学金)の貸与者を募集しています。

現在国内の医学部医学科に在学している方で、将来、県内の公的医療機関等で医師として地域医療に従事しようとする気概と情熱に富んだ医学生の方に、修学資金を貸与します。

貸与額 月額貸与額 15万円(自宅から学校へ通学している方は10万円)
入学料相当額 28万2千円(平成24年度新入生のみ加算)

貸与期間 貸与決定の月から、大学の正規の最短修学年限

その他 卒業後医師となって、貸与を受けた期間の1.5倍の期間、公的医療機関等(診療所の勤務にあつては1年を限度)に勤務して頂いた場合は修学資金の返還が免除になります。(なお、勤務期間の1/2については知事が公的医療機関等の中から指定します。)

★「レジデントスキルアップキャンプ2011」を開催しました。

秋田県の研修医講習会（主として1年目）である、レジデントスキルアップキャンプが、10月28日（金）～29日（土）に開催され、青森・岩手の研修医を含む54名が参加しました。

各病院からのTFの先生方が、毎年情熱を込めてプログラム策定をしておりますが、今年は新しい企画として「ファーストタッチ・サーキットトレーニング」と、福井大学の北野史浩先生の講義「プレゼンの粒知識」がありました。

「ファーストタッチ・サーキットトレーニング」は内容・疾患の異なるステーションを20分ずつ6ステーションを巡回して受講するトレーニングです。4～5人の小グループで自分達で考えながら進めて行くスタイルは、メリハリがあって勉強になったという声が多く聞かれました。

福井大学の北野先生の「これで差がつく!・・・かも プレゼンテーションの粒知識」では、30分という短い時間ながら、プレゼンの極意について、テンポよく、かつ笑いのある話術にみんなが引き込まれました。アンケートには「目からウロコ!!!」「ジョブズのようなプレゼン、感動しました」など、高い評価を得た講義となりました。北野先生には、来年度のキャンプにも是非来ていただきたいと思います。



サーキットトレーニング・外科のステーション

★「医学生スキルアップセミナー」も開催しました。



医学生スキルアップセミナー「産婦人科」

県内外の医学生の相互交流と研鑽を目的とした「医学生スキルアップセミナー」が10月29日（土）に開催され、15名が参加しました。

午前中は、昨年度に引き続き、大潟村会場で「レジデントスキルアップキャンプ」の「ケースカンファレンス」を聴講、午後は初の試みとして、夜の二次会を見据え、会場を「秋田市大町」（川反）に移した上で、C B T・国家試験対策のための「集中セミナー」を受講していただきました。セミナーは、今年も秋田大学の先生方のご協力を得て、「腎・血液・膠原病」、「循環器内科」、「神経内科」、「産婦人科」の充実した内容となりました。

残念ながら、今回は、県外からの参加はありませんでしたが、セミナー終了後の「情報交換会」では、秋田の美味しいお酒を片手に、郷土料理に舌鼓を打ちながら、講師陣と受講生の和気あいあいとした雰囲気の中、楽しいひとときを過ごしていただきました。

来年度も開催予定です! 県内外の医学生の皆さま、ご参加をお待ちしております。

医学生病院合同説明会を開催します。

秋田県内の14臨床研修病院に加えて青森県、岩手県からも臨床研修病院が参加します。

指導医、研修医があなたの疑問に優しく答えます。懇親会も用意しておりますので、時間はたっぷり。是非御参加ください。

日時 平成24年2月10日（金）午後5時～

場所 秋田大学医学部内（秋田市本道1丁目1番1号）

内容 第1部《臨床研修病院ブース毎の説明会》

秋田大学医学部内

第2部《意見交換会》午後7時30分～（参加費無料）

（懇親会） ホテルメトロポリタン秋田（秋田市中通7丁目2-1 秋田ステーションビル）

※移動手段は確保しておりますので引き続きご参加ください。



指導医メッセージ



秋田大学医学部附属病院
血液浄化療法部

講師 井上 高光 先生



私は千葉で生まれ育ち、高校時代はバイオリン演奏に明け暮れました。当時分子生物学と人文科学に興味があり、両方に深く関われる医師に憧れました。浪人しセンター試験に失敗し入学試験も補欠合格で、本当に縁があって、導かれるように秋田に参りました。卒業前は、出来の悪い私を育ててくださった秋田での人間関係を大切に感じたことと、泌尿器科学のバランスの良い幅広い守備範囲に魅力を感じ、秋田県で泌尿器科医になることに決めました。

もっと地域医療に貢献できるオールラウンドな医師になりたい、と迷っていた私に、所属していた秋田大学室内合奏団の当時顧問をして下さっていた加藤哲郎泌尿器科名誉教授が問いかけました。「井上君、君は音楽を完璧に知っている巨匠バイオリニスト、ヤッシャ・

ハイフェッツがフルートもトランペットもオーボエも吹ける必要があると思うかい?」「いやいや先生、バイオリンだけ極めれば音楽全体は自ずと見えて来るんだと思います。」「井上君、医学も同じだよ、君は泌尿器科を極めなさい」と、まるで宗教家の暗示にかかったかのように泌尿器科を選択しました。

現在は泌尿器科腫瘍学と腎移植および透析医療を専門として働いています。この道を選んで10数年になりますが、日進月歩の泌尿器科最先端医療を秋田県で実践し、秋田県の泌尿器科地域医療のレベルアップに貢献したいという思いは変わらず、今でも暗示にかかって良かったと思っています。京都大学への国内留学時には患者さん側が医療者を審査して選びぬき、医療者側も患者さんを選んで治療する雰囲気がありましたが、秋田県は医療過疎であることから、医療者は地域医療の担い手としての自負を感じ、患者さん側も暗黙のうちに医療者を信頼しあう、都会にはない温かい空気があると感じています。最先端医療でも地域医療でも、目の前の患者さんが少しでも幸せになる手助けをするという医療の基本理念は、変わらずひと続きのものです。卒業前や研修中の先生方には、ぜひ秋田県から世界に発信できる最先端医療を実践することで医療全体を理解し、地域医療ひいては地域社会にも貢献するという広い視野をもって、今後の進路を選択して頂きたいと切に願っています。



あきたの
病院紹介
vol.12

雄勝中央病院

〒012-0055 秋田県湯沢市山田字勇ヶ岡25
TEL 0183-73-5000(代表)



脳神経外科 科長
大塚 聡郎 先生

いつの間にか19年目になりました。これまでひたすら自分の仕事だけに専念してきましたが、最近は臨床研修医の先生方と接する機会が多くなり、あらためて医療に対する真摯な姿勢に気付かされています。研修医の皆さんはさまざまな不安を抱えながらも、最初に患者さんやその家族と信頼関係を築こうとしているように感じます。その後診察を進めて行く彼らの様子には、自分も勉強になります。自分が研修医になりたての頃はどうかだろうか。研修医の皆さんは時には生命に関わるような状況に直面する事もあるでしょう。我々スタッフ一同

は、厳しい中にも安心できる医療現場を提供できるように心がけています。当院は秋田県内陸南部、湯沢雄勝地域の中核病院で、自然豊かな環境です。決して都会ではありませんが、病院を訪れる患者

さんの状況は多岐にわたり、救急医療、その他外科的な一般研修、および現代の医療事情が抱える高齢者医療など、初期研修に重要な経験ができると確信しています。ぜひ風光明媚な湯沢雄勝の地で研修を考えてみてはいかがでしょうか。当地は酒所でもあります。秋田の美酒に酔ってみたい、という方も大歓迎致します。



秋田県 ドクターバンク

秋田県では、職業安定法に基づく秋田県医師無料職業紹介所（ドクターバンク）を介し、県内の病院又は診療所での勤務を希望する医師に対し就職先の斡旋、紹介等を行っています。どうぞお気軽にお問い合わせください。

秋田県医師無料職業紹介所(ドクターバンク)



… お問い合わせ先 …

E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

この印刷物は、印刷用の紙にリサイクルできます。